

# 檜前遺跡群



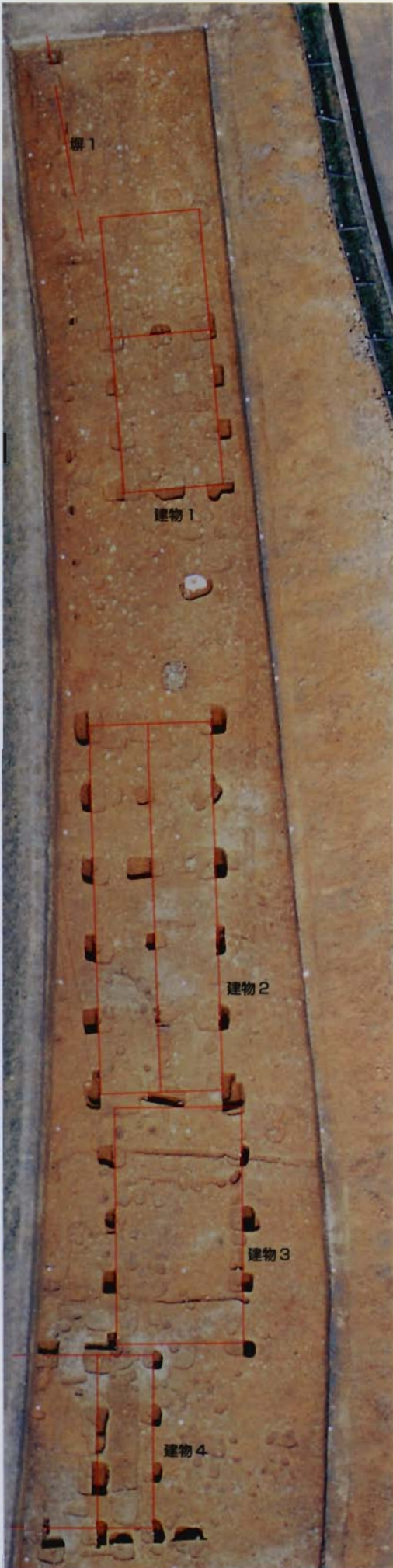
2008年9月

明日香村教育委員会









# ひの くま い せき ぐん 檜 前 遺 跡 群

## はじめに

檜前遺跡群は檜隈寺からキトラ古墳までの周辺一帯に取り巻く遺跡群の総称です。調査地は檜隈寺金堂から南に200m、キトラ古墳から北西に450mの距離にあります。キトラ古墳の立地する丘陵から北西に派生する尾根筋の平坦部に立地します。

調査地である檜隈地域は渡来系氏族である東漢氏の居住地とされ、檜隈寺はその氏寺であると考えられています。檜隈寺は西門を正面にする特異な伽藍配置をとり、講堂は瓦積基壇と飛鳥地域では他に例がありません。檜隈寺の中枢部は特異な状況を示していますが、その周辺環境はよくわかっていませんでした。

今回は国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区整備に伴って、東西80m、南北は最大で10mを測る東西に長い調査区を設定し、計580㎡を調査しました。

## 主な遺構と出土遺物

調査の結果、飛鳥時代後半を中心にした5棟の掘立柱建物群と塀2条がみつかりました。これらの建物群は、方位や柱穴規模などから、3つに区分することができます。第1は柱穴規模が90～100cmの建物2と建物4と塀2。第2は柱穴規模が70～90cmの建物1、建物3。第3は柱穴規模が80～90cmの建物5と塀1。これらの建物群は、丘陵平坦部の狭い敷地内に隣接して建てられていることから、時期差による建て替えと考えられます。

その他にも礎石状台石、柱穴跡、小穴、溝などが検出されました。主な出土遺物には土師器、須恵器、瓦器、陶磁器などがあります。

## まとめ

今回の調査では、檜隈寺の南方地域で飛鳥時代後半を中心にした掘立柱建物群を検出することができました。これらの掘立柱建物群は地形に則して建物をたて、2～3時期の建て替えをしていることがわかりました。

今回の調査地は、檜隈寺から谷を隔てて200mと距離が離れ、瓦や寺院に関わる遺物が出土しませんでした。よって檜隈寺と直接関わるような施設とは考えにくいといえます。ただ、本調査地は、場所や立地からみて東漢氏との関わりを抜きにしては考えられません。これらの建物群は東漢氏に関わる施設であった可能性が高いといえます。また、今回検出した掘立柱建物群には床束建物があることからすると、居住に関わる施設とも考えられ、東漢氏に関わる施設の一部と考えられます。

今回の調査によって、檜隈寺周辺での土地利用の一端を明らかにすることができました。しかし、調査区が狭く建物配置などを明確に把握することができませんでした。今後の周辺での発掘調査が期待されます。